



鷲見 宗重 議員

防災行政について

問 8月6日豪雨の被害状況について高浜市の最終的な被害状況は。

答 1時40分から2時40分までの1時間に122・5ミリの記録的な雨量を観測しております。主な被害としては、床上浸水が18件、床下浸水は86件です。道路冠水は10カ所です。

問 中荒井と塩田のポンプの作動状況をお示しください。

答 塩田のポンプは1時49分に作動、中荒井のポンプは3時30分に作動しております。

問 市役所に雨量計があるなら、連動させて、10分間に10ミリを超えたら、起動させる考えは。

答 委託業者と市職員も現地に外向き対応をしていますので、市役所からの遠隔操作はする考えはない。

問 8月6日当時、同報系防災行政無線は、放送されましたか。

答 既に浸水が発生していて二次災害の発生が懸念されるので

放送はしていない。

問 呉竹町と碧海町での排水が悪く、床下浸水の被害が起きています。排水路の改善は。

答 排水施設の再確認と詳細な調査をし、有効な対策を整理し、排水路の改良する部分があるか調査していきたい。

教育行政について

問 高取小学校の児童転落事故を受けて教育委員会から学校に対してどういう指示をしたか。

答 窓下に踏み台となるようなものを設置しないことなどを指示し、学校と市教育委員会と連携して現場確認を行いました。

問 学校給食については学校給食を公会計にして、給食費未納に対する教職員の業務を少しでも減らすことが必要と考えますが、見解を。

答 学校で行っている私会計による支障がないことから公会計に移行する考えはありません。

問 給食費の無料化を実施する考えは。

答 受益者負担の原則を踏まえ、無料化を実施する考えはありません。



柳沢 英希 議員

第6次総合計画におけるコミュニティ・ビジネスについて

問 コミュニティ・ビジネスとは何か。

答 「市民が主体となり、地域資源を活かしながら、地域の課題をビジネスの手法を用いて解決することであり、コミュニティの再生を通じて、その活動の利益を様々なカタチで地域に還元する事業の総称」であり、雇用や生きがいの創出に繋がるものである。

問 創業するまでの仕組みは。

答 創業する個人・団体等に対して、経営戦略グループによる事前評価などの手続きを経て、民間委員5人で構成される審査会に諮り、プレゼンテーションを行い採択基準と照らし合わせ、採択不採択の決定が行われる。そして、創業するために必要な交付対象経費2分の1以内50万円を上限に交付し、運営支援金は翌年2分の1以内10万円を上

限として交付する。但し、事業途中で要件を満たさなくなった場合は、交付金の一部または全額の返還を求めていく事になる。

問 今年度の創出支援事業の内容や進め方は。

答 今年度は2件申請があり、『カイロプラティックでの健康づくり』1件が採用され、吉浜ふれあいプラザや他のふれあいプラザでの事業展開といった、公共施設の活用も考えてみえます。採用された事業者に対しては今後、財政面のみではなく、経営のノウハウ等、側面的支援も行なう。

問 民間事業者やシルバー人材センター、総合サービス等との調整は。

答 経営圧迫など起こらぬよう、事業提案の前段階、実施過程において、コンサルタントなどの専門家の指導、助言を随時受けられる仕組みになっている。

問 今ひとつ市民にコミュニティ・ビジネスが浸透してないが、今後の考えは。

答 採択事業が軌道に乗り、市民に認知されることを目指すが、商工会とも情報を共有し互いに連携しながら、コミュニティ・ビジネスが地域に浸透するよう、広報やホームページ等でも紹介し進めていく。